

# 水鏡

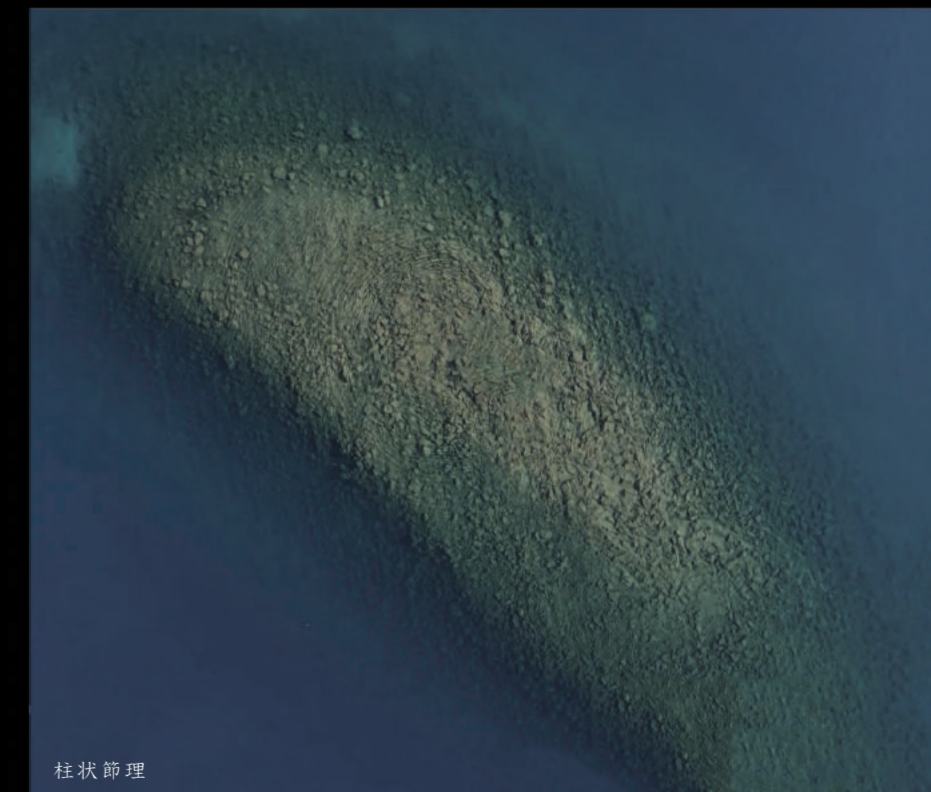


## 背景

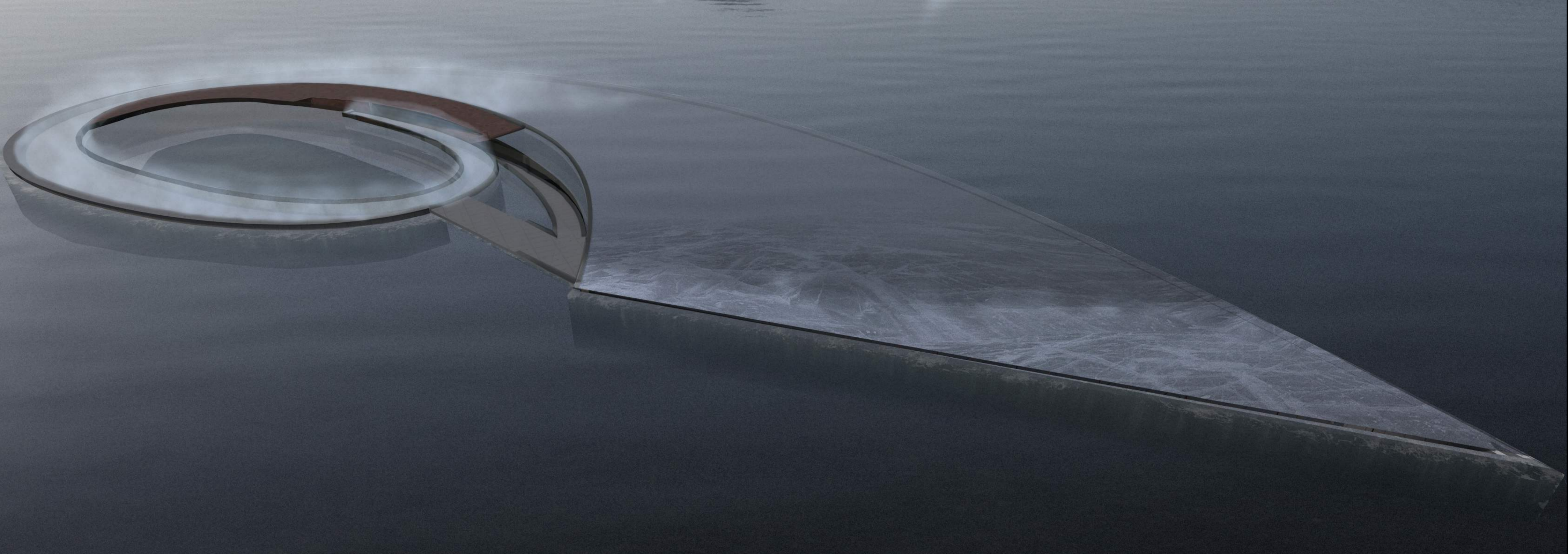
安らうことの本質が定まらない現代において、人々は周囲の道具、環境、景色から責務が脳裏をよぎることがあるのではないか。休日においても無意識に義務感や生産性に囚われているように感じる。本計画では、そんな囚われの身を、広大な湖の水面と景色とつながる建築によって解放することを目的としている。

## 敷地

雄大な自然を有する洞爺湖を計画地とする。現在でも火山活動が行われており、温泉街として親しまれている。洞爺湖中樞に位置し、水に沈んだ島と呼ばれるゼロポイントを敷地とする。ここは、火山の隆起で発生した柱状節理があり、特に火山活動が活発に行われている。周囲はカルデラ湖ならではの穏やかな水面が広がり、広大な鏡のように雄大な景色を映し出している。



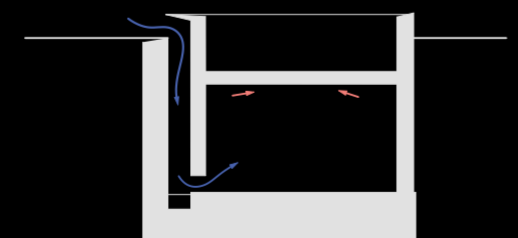
柱状節理



### 計画

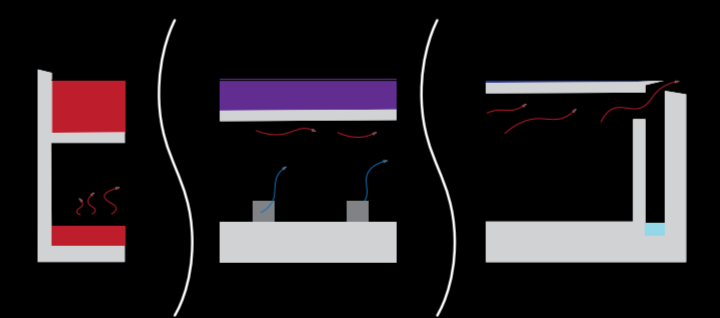
洞爺湖の雄大な資源による温泉施設を計画する。  
高温で沸く温泉を建築に巡らせて、湖水温まで冷却後に放流し、水温上昇を防ぐ。  
水下では高温の温泉を流し、放出されたミストはサウナの熱として利用し、湯温の低下した温泉は内風呂へ流れる。  
水上では露天風呂があり、心地よい温度の湯をより分け、あたりの景色を堪能する。  
冬季には不凍湖と知られる洞爺湖は凍り、水面鏡に変貌する。

流れの断面積・外気接触面を増やす

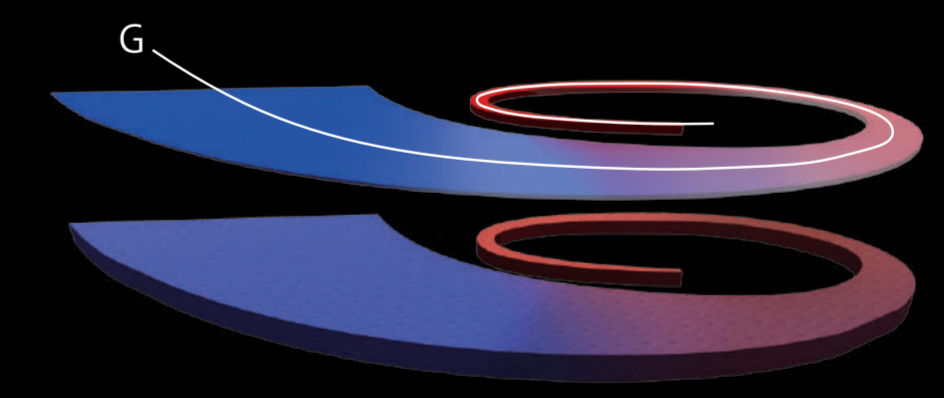


外気を下部より給気し、上部より排気

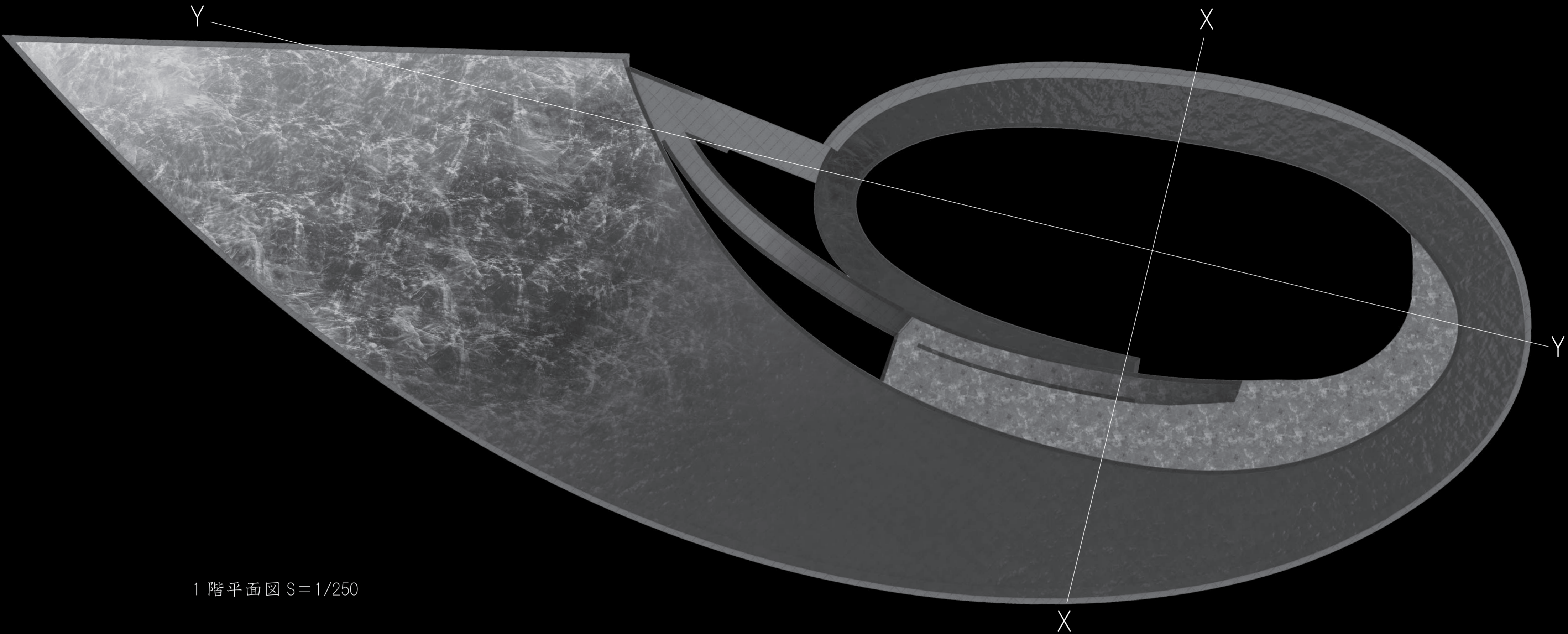
### 冷却の手法



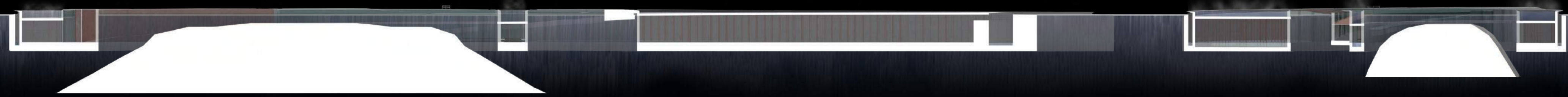
G-G 断面



空気と水の温度変化

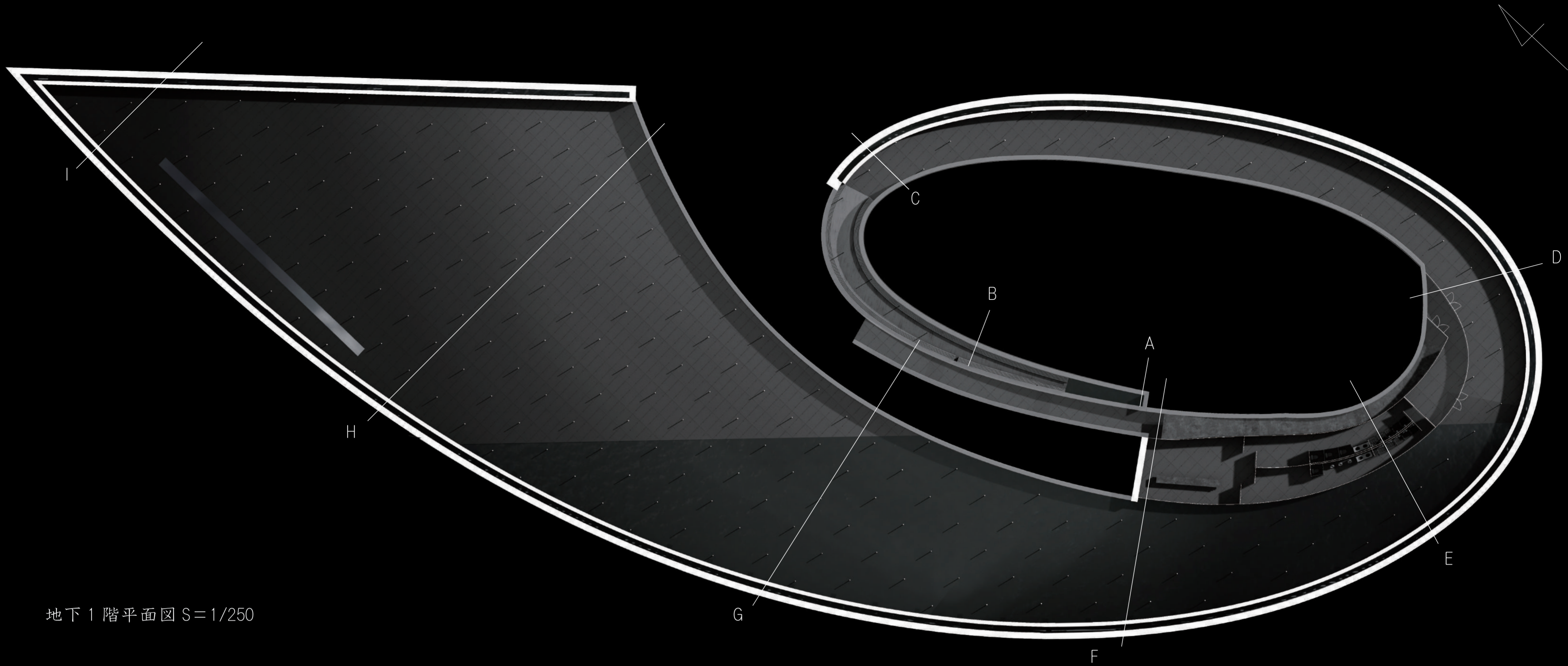


1 階平面図 S=1/250

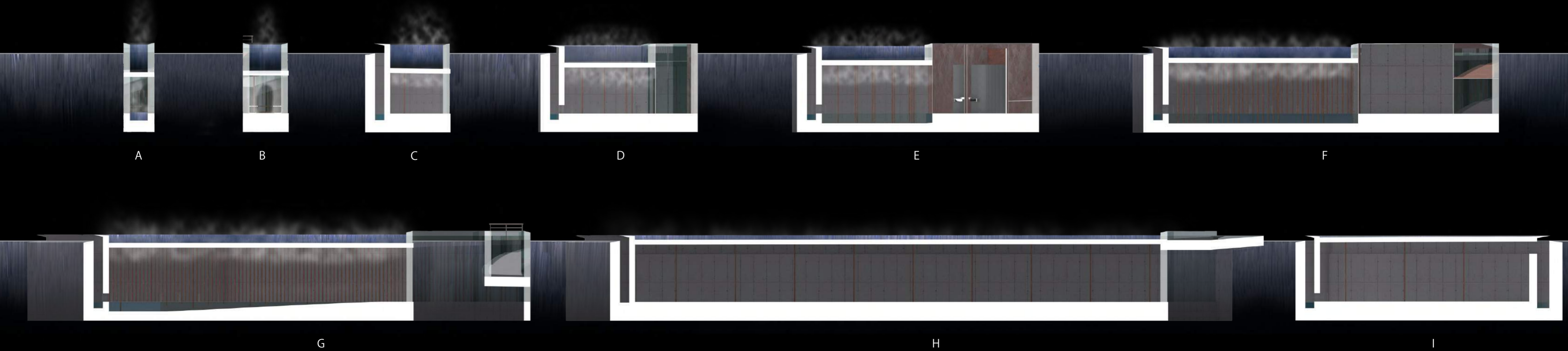


Y-Y 断面図 1/400

X-X 断面図 1/400



地下1階平面図 S=1/250



断面図 1/150



高温露天風呂



露天風呂



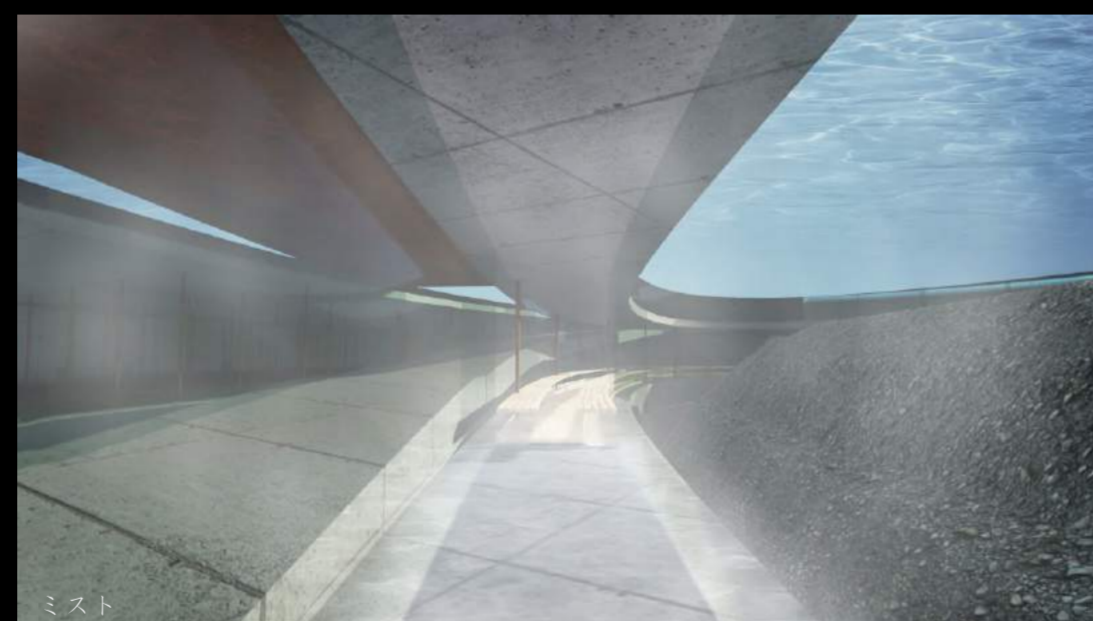
低温露天風呂



水面鏡



露天風呂へのスロープ



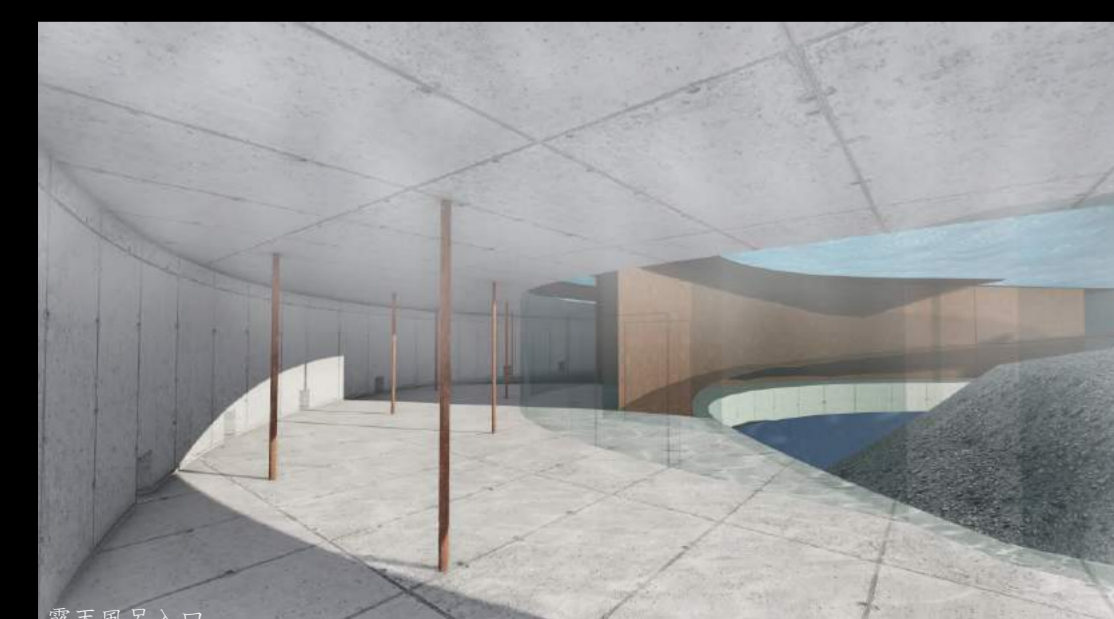
ミスト



ミストサウナ



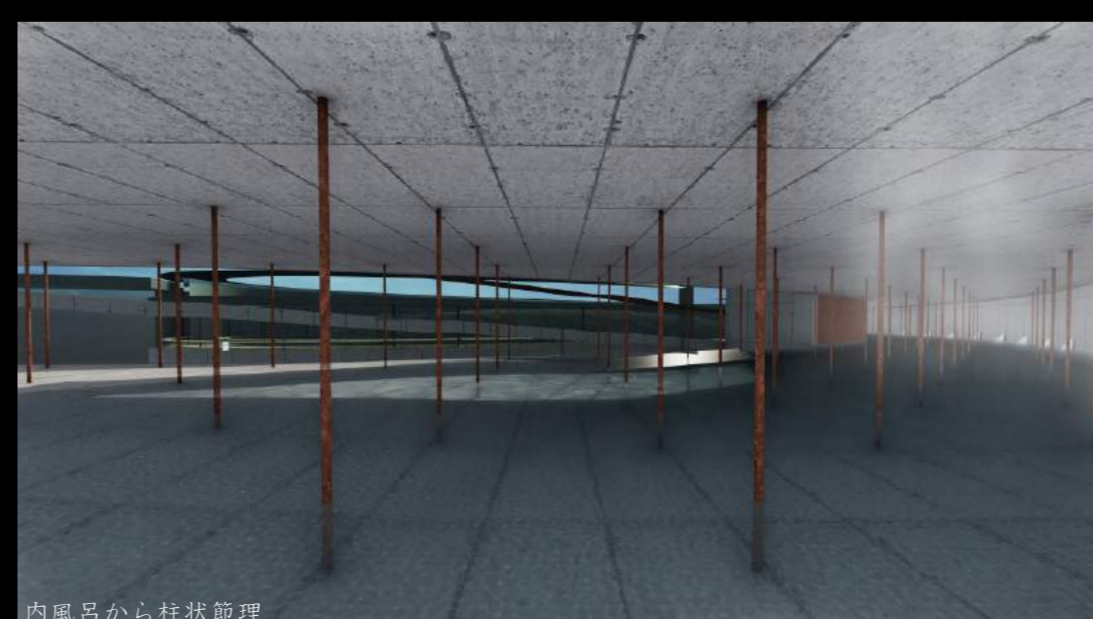
冷却空間



露天風呂入口



内風呂



内風呂から柱状節理



水面のゆらぎ